

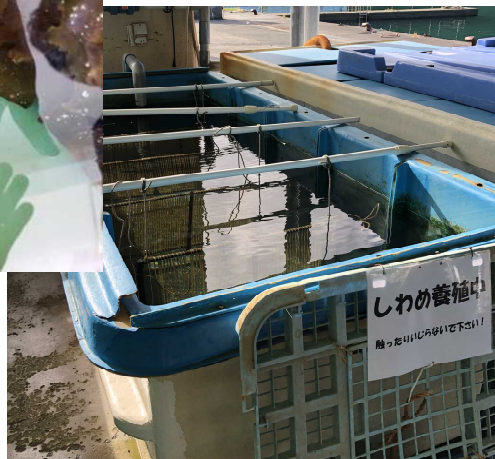
令和4年11月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

アントクメ養殖試験を開始

本誌97号（6月）でお知らせしましたが、近年のアントクメ※の漁獲量減少を受け、西伊豆地区の漁業関係者が養殖試験に取り組んでいます。今年度は、稲取漁港から採取したアントクメを母藻とし、伊豆分場で育成した後、9月30日に伊豆漁協西伊豆統括支所へ運んで遊走子の放出を試みました。当日は、母藻から放出された遊走子で水槽内が濁る様子が観察され、この遊走子を種苗系に付着させて、翌10月1日から種苗養成を開始しました。その後、水温や光量の調整を漁業関係者が管理しています。順調に進めば12～1月頃に種苗系を沖出しし、4～5月頃に収穫できる予定です。養殖試験によってアントクメの生産が向上し、地域の特産品としてより多くの方々にその魅力が広まることを願っています。



←母藻から放出させた遊走子



育成水槽にて種苗養成を開始↑

※地元で「しわめ」や「とんとんめ」とよばれる

漁業士と行政との意見交換会

10月14日に東伊豆町役場にて、東部地区漁業士会と行政との意見交換会が開催されました。漁業士とは県が認定した、地区のリーダーとなる漁業者のことです。意見交換会では、会場職員からキンメダイ資源評価について説明を行った後、キンメダイ資源に関することや各地区の漁模様の他、漁船とシーカヤック、SUP等との関係について意見や情報交換を行いました。漁模様が悪い魚種が多い昨今ですが、このような時だからこそ、現場の漁業士と行政との直接の話し合いの場が重要となっています。



↑意見交換会の様子

定置網に南方系の魚が入網

伊東魚市場に珍しい魚が水揚げされました。写真の魚は北川の定置網で漁獲されたもので、色合いはウルメイワシのようですが、体が平たくマイワシに似た体型です。調べてみたところ、この魚はカタボシイワシという南方系のイワシの仲間でした。伊豆東岸の定置網には、近年沖縄でグルクンと呼ばれているタカサゴの仲間が漁獲されるなど、南方系の魚が見られることが多くなっています。皆さんも見たこともない魚を見つけたら、伊豆分場までお知らせください。



↑カタボシイワシ（伊東魚市場にて）

11月の予定 ●キンメダイ資源評価会議（2日） ●技術連絡協議会（9日）

●漁業士会と県農林水産担当部長との意見交換会（11日） ●漁業士認定委員会（28日）

●水産・海洋研究発表会（30日） ●潜水調査（下田・南伊豆 カジメ磯焼け調査）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。